

## プーチンの最新の演説と、ロシアがウクライナの全部を取るといううわさ

<https://www.infowars.com/posts/putins-latest-speech-rumors-of-russia-taking-all-of-ukraine/>

Infowars.com  
March 3, 2022

⇒マクロン・フランス大統領が、プーチンとの電話会談の後、「この先、最悪のことが起こるかもしれない」と警告。

ロシアのプーチン大統領は、木曜日、演説を行う前に、フランスのエマニュエル・マクロン大統領と会談した。

マクロンの補佐官によると、フランス大統領は朝の電話の後、プーチンは「ウクライナ全体を掌握しようとしている」かのように感じたと言った。

<https://www.aljazeera.com/news/2022/3/3/putin-says-ukraine-advance-going-to-plan-as-war-enters-week-two>

「彼は、彼自身の言葉で、最後までウクライナを「脱ナチ化」する彼の作戦を実行するだろう」と、この補佐官は加えた。

90分と言われているこの談話で、ロシア大統領は、彼の国家は「ナショナリスト武装集団の民兵と、妥協することなく戦いを続けるつもりだ」と主張したと言われる。

ロシア-ウクライナ紛争の次は何かについて、補佐官は言った、「仏大統領の予想は、プーチン大統領が彼に話したことから考えると、これから最悪の事態がやってくるということだ」と、この報道官は、匿名を条件として話した。

木曜日の午後、プーチンは世界に向けて演説を行い、「特別軍事作戦が、計画に従って行われようとしている。我々の考えた目標のすべては達成された」と言った。

おそらく「ウクライナのすべて」を取ろうとする説を灰めかして、プーチンはまた、「ロシアとウクライナが同じ民族であるという言明を、私は覆すつもりはない」と言った。

## プーチン演説のトランスクリプト全体は以下の通り：

ロシア市民、同胞の方々、

私は、ドンバスの悲劇的な出来事について、また、ロシアの安全を保障するカギとなる様相について、今日ここに、再びお話しすることが必要になったと考えています。

私は、2022年2月21日の、私の演説でお話したことから、始めようと思います。私は我々の、最大の気がかりと困りごとについて話しました。それは基本的な我々への脅威で、無責任な西洋の政治家たちが、ロシア人たちに対して、一貫して、無礼にも、礼儀知らずにも、来る年も来る年も、言い続けているものです。私の言っているのは、NATOが東側へ拡張し続けていることで、彼らは、その軍事インフラを、ロシア国境にますます接近させようとしています。

我々が過去30年に及んで、ヨーロッパの、平等で分離できない安全保障の原則に従って、主導的なNATO諸国との合意に達しようと、辛抱強い試みをしてきたのは事実です。我々の提案に対して、我々は絶えず、皮肉な騙しやウソ、あるいは圧力やゆすりの試みに直面してきました。その一方で、北大西洋同盟は、我々の抗議や懸念を無視して、拡張を続けてきました。その軍事的機械は移動して続け、私が言ったように、我々の国境のすぐ近くまで接近しています。

なぜこんなことが起こっているのでしょうか？ 彼らの例外主義、無謬思想、そしてすべてが許されるという、この無礼な、上から見下ろして脅すやり方は、どこから来たのでしょうか？ 我々の利益へのこの軽蔑的で、人を人とも思わぬ態度と、絶対的な合法を主張する態度を、どう説明すればよいのか？

その答えは簡単です。すべてが明かで見えています。1980年代後期に、ソビエト連邦は弱体化し、それに続いて崩壊していきました。それは我々にとって、よい経験になったのです。なぜなら、力と意志の麻痺は、完全な崩壊と忘却への第一歩であることを、それは我々に示したからです。我々はほんのひと時、自信を失くしただけでしたが、それは世界の力のバランスを失わせるには十分でした。

その結果として、古い条約や合意は、もはや無効となっています。お願いや要求は役に立ちません。覇権国家、時の権力者（The Powers That Be）にとって都合の悪いものは何であれ、古びて役に立たない物として弾劾されます。と同時に、彼らが有用と見なすものは、究極の真理として重用され、その犠牲にお構いなく、悪いことに利用され、他者にも押し付けられる。従うことを拒否する者は、腕力戦術によって服従を強制される。

私がいま言っていることは、ロシアだけの問題ではありません。このことに悩んでいる国はロシアだけではない。これは国際的関係のシステム全体に関わることで、時には、アメリカの同盟国についてさえそう言える。ソビエト連邦の崩壊は、世界の再分裂につながり、そのころまでに発達した国際法の規準にも影響し、最も重要なのは、第2次大戦に続いて採用され、その結果を大きく形成した根本基準が、冷戦の勝者を自ら宣言した者たちを利するようになった。

もちろん、習慣や国際的関係、それらを規制するルールが、世界と力のバランスにおいて起こった変化を、勘定に入れなければならなかった。しかし、これは専門家として、スムーズに、辛抱強く、しかるべき配慮と尊敬の念をもって、すべての国家の利益のために、また自分自身の責任感によって、行われるべきものでした。ところがそうでなく、我々の見たものは、絶対的な優越感によって創り出された幸福状態であり、低い文化的標準と傲慢が一つになった、ある種の現代的絶対主義で、自分にだけ都合のいい決定によって形を作り、押し進める者たちのやり方だった。これは別の方向へ向かうものでした。

その例はたくさんあります。まず、血なまぐさい軍事作戦が、(セルビアの)ベオグラードに対して行われ、それは国連安保理の制裁もなしに、ヨーロッパの中心で戦闘機とミサイルを使って行われた。平和的な諸都市や重要なインフラの爆撃が、数週間も続いた。私がこの事実をどうしても思い出すのは、いくつかの西洋の仲間が、好んでそれを忘れようとするからで、我々がその出来事を口にする時、彼らはきっと国際法のことを言うのを避け、自分が必要と解釈する状況だけを強調するのです。

それからイラク、リビア、シリアの番がやってきた。リビアに対する軍事力の違法な使用と、リビアへのすべての国連安保理の歪められた決定は、この国家を破滅させ、国際的テロリズムの巨大な場所を作り出し、この国家を人道的な破局へと追いやり、内戦の嵐が作り出されて、それが数年間つづきました。何千、何万、あるいは何百万という犠牲者を作り出した悲劇は、リビアだけでなく、この地域全体に広がり、中東や北アフリカからヨーロッパにまで、それは大規模な脱出に繋がっていきました。

同じような運命がシリアにも用意されていました。この国で、シリア政府の承認も、国連安保理の制裁もなしに行われた、西側の連合による戦闘作戦は、侵略や介入としてしか定義できないものです。

しかし、上に述べた出来事から特に飛びぬけた例は、もちろん、全く法的根拠をもたないイラクの侵略です。彼らは、イラクのもつ大量破壊兵器の証拠だとして、アメリカにあるという信頼すべき情報を口実に用いた。その主張を証明するために、米國務長官(注:コリン・

パウエル) が白い粉の入った小瓶を示し、世界中の人が見えるように公開した。そして国際共同体に対し、これがイラクで作られた化学戦争用の薬品だと保証した。信じられない、ショッキングが話だが、本当のことです。我々は、最高の国家レベルで作られ、国連の演壇で言及されたウソを目撃したのです。その結果として、我々は恐るべき人命の損失と、被害と破壊、それに膨大なテロリズムの波を目撃しています。

全体的に、アメリカがその法と秩序をもたらした、ほとんどあらゆる場所で、これが流血と癒しのない傷と、国際的テロと過激主義の、呪いを創り出しました。私が挙げたのは、国際法への無視の、最も露骨な例のほんの一部にすぎません。

ここに並べたものの一つとして、NATO は 1 インチたりとも、西の方へ拡張しないという約束があります。繰り返すなら、彼らは我々を騙した、あるいは簡単にいえば、我々を愚弄しているのです。確かに、政治とは汚い仕事だと言います。そういうこともある。しかし、それは今のように汚いものであってはならない。これは限度を超えています。この種のイカサマ芸術の振舞いは、国際的関係の原則に逆らうだけでなく、それは特に道徳と倫理の、一般に受け入れられた基準に逆らうものです。ここどこに、正義と真理があるでしょうか？ どこを向いても、あるのはウソと偽善だけです。

ついでながら、アメリカの政治家、政治学者、それにジャーナリストが、正真正銘の「ウソの帝国」が、近年、アメリカ合衆国内部で創り出されていると書き、また言っている。これには抗えない。本当にその通りです。これには遠慮した言い方をすべきでない——「アメリカはそれでも偉大な国だ、組織を作れる力を持っている」などと。その衛星国のすべては、これにおとなしく従って「イエス」を言い、わずかな言い訳にも物真似をするだけでなく、その振舞いを真似て、それが彼らに教えるルールを熱心に受け入れる。したがって、十分な理由と自信をもって言えることは、アメリカによって、その似姿そっくりに創られた、いわゆる西洋ブロックの全体は、そっくりそのまま「ウソの帝国」だということです。

我々の国はどうかと言えば、ソ連邦の崩壊の後、新しい現代ロシアの全く初めての開放性を与えられ、アメリカや他の西側パートナーと、正直にやっていく気安さを持ち、また実際上、一方向的な無防備さをもっているのです。彼ら西側は直ちに、我々に最後の締めわざをかけようとし、我々を片付け、完全に破壊しようとしてきました。これが 1990 年代と 2000 年代初めに起こったことで、そのとき、いわゆる集団的西側は、一生懸命、分離主義と、南ロシアの傭兵のギャングどもを支持していました。どれだけの犠牲者、どれだけの損失に我々は耐えねばならなかったか、そして、どれだけの試練を経験しなければならなかったか！ それはまだ、我々が、コーカサスで国際テロリストの背骨を折る前だった！ 我々はこれを覚えており、決して忘れることなないだろう。

正しく言えば、我々を、彼らの利益のために使おうとする試みは、全く最近まで絶えたことがなかったのです。彼らは我々の伝統的価値を破壊しようとし、彼らのニセの価値を我々に押し付けて、我々人民をその内部から腐食させようとしてきました。これは彼らが攻撃的に彼らの国々に課してきた態度で、それが直接に墮落と崩壊につながるのは、彼らが人間の本性に反しているからです。こういうことが起こってはなりません。誰もこんなことをして成功した者はいません。そして現在も成功しないでしょう。

そのことすべてにもかかわらず、2021年12月に、我々は更にもう一度、アメリカとその同盟国に対し、ヨーロッパの安全保障と NATO の不拡大原則について、合意に達する試みをしました。我々の努力は無駄でした。アメリカはその立場を変えていません。彼らは、我々ロシアにとって、死活の問題である事柄について、合意する必要があるとは考えていないのです。アメリカは自分自身の目標を追求し、我々の利益を無視しているのです。

.....

#### [訳者 Greatchain 解説]

プーチン氏の演説はまだ続き、これでも全体の3分の1強である。全体を訳すべきだが、とりあえずここまでにしておく。読者はこれだけでも、その迫力に打たれるだろう。私は一国の指導者が、これだけ力のこもった話をする事自体に驚く。これだけ人を打つ演説のできる政治指導者はプーチン氏だけであろう。かつてケネディ大統領が、やはり不正に立ち向かい、国家に秘密があってはならないという演説を行い、ほどなくして暗殺された。この演説も名演説と言われたが、プーチンのそれとは比較にならず、第一、短いものだった。プーチンの話は、教師としての自国の歴史の解説者のようであり、自国民と世界の人々を相手にして、理路整然と、ロシアの受けている、「西側」からの不当な扱いを説明する。その文章は評論家のように冷静だが、怒りに震えている。

プーチンを一方的に批判する人は、まずこれを読んで見られるとよい。プーチンは「ヴァルダイ討論会」と呼ばれる討論会を毎年、行っていたが、彼のポイントは、欧米諸国の墮落・腐敗の追及で、ロシアの若者をあんなふうにしたくないという、倫理道徳を説くものだった。それは武力でなく、人間力の違いを見せつけるものだった。当然ながら、彼のファンは世界的に、圧倒的に多いと思われる。彼があらゆることで、欧米から非難されながら、耐えていることについて、世界の人々から「プーチン大統領への公開謝罪状」を寄せられ(2014/9/11)、驚くべく大勢の人が署名したことがある(私もその1人)。

<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/140911.pdf>

この演説の中に、アメリカの従僕国たちに対する、かなり皮肉な批判が述べられているが、わが国も当然、その模範的な一員である。これは傾聴すべきである。なぜなら、今世界で堂々とこれが言えるのは、立場的にも能力から言っても、プーチン氏一人だからである。わが国の人々は、プーチン-ウクライナ問題について、ほとんど何も知らず、ただ他人に合わせて、反プーチンを唱えている。それは逆に自分を犯罪者にする可能性があることを、知っておくべきである。